



ゼカリヤ

書いた人

ゼカリヤ預言者

ゼカリヤの意味

主が覚えてくださる

核心聖句

すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は仰せられる。(ゼカリヤ 4:6)

パパとママとまず理解するゼカリヤ書

ゼカリヤ預言者の名前は「主が覚えてくださる」という意味です。

イスラエル民族がバビロンに捕虜として連れて行かれ、そのときに神殿も破壊されました。約70年後にペルシヤのクロス王がイスラエルの一部の民をイスラエルに帰るようさせました。神様は、荒れ果てた地で食べて生きるのに忙しい民に、神殿を作りなさいと言われました。しかし、サマリアの妨害と、食べて生きる問題で、神殿建築が中断されたのです。

ゼカリヤ預言者は、ハガイ預言者とともに、神殿を再建しなさいという神様のみことばを受けました。結局4年後にゼルバベル神殿が完成されます。

ゼカリヤ預言者は、神殿再建をしなさいと言っただけでなく、必ず来られるキリストに対する幻を見ました。そして最後の再臨の主として来られる日も幻で見えて、聖書に残したのです。

結局、歴史はずっと繰り返されて、どこかに捕虜として連れて行かれ、属国になりました。しかし、神様は神の民を救うために、イエス・キリストを送ってくださいました。神様がくださった本物の答えです。

ゼカリヤ預言者のように、神殿の主人公であるイエス・キリストを味わう方法をレムナントといっしょに話してみてください。



「パパ! あれ できて みてよ!
イエスさまが ろばに のって
エルサレムに はいって こられたよ。
メシヤなのに どうして あんな
ちいさな ろばに のってるのかな」

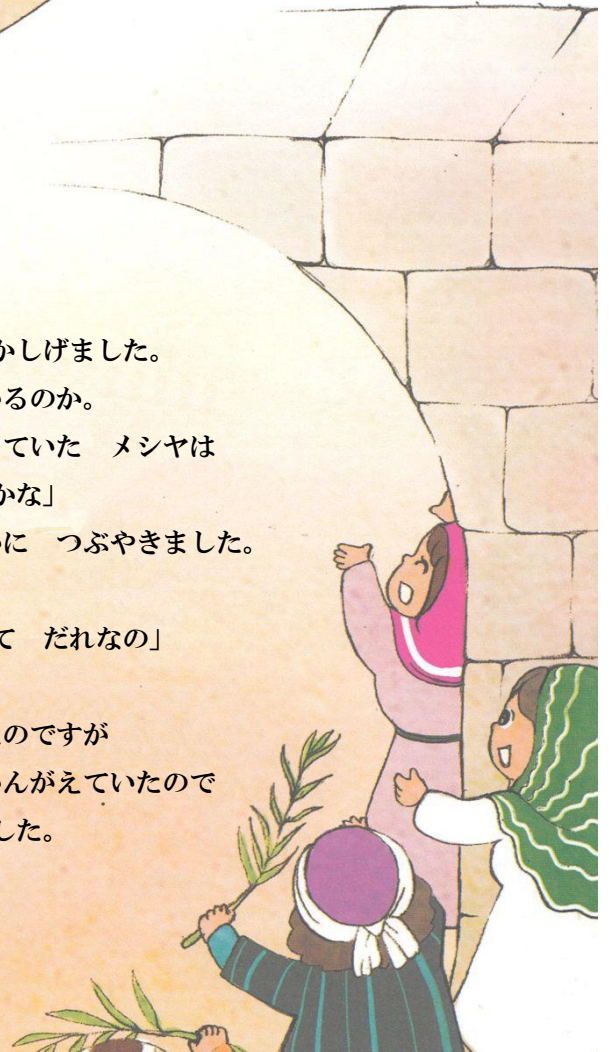
おとうさんは むすこの てに
ひっぱられて そとに でした。
うわさだけ きいていた イエスさまが
ほんとうに とおりすぎて いかれた
のでした。



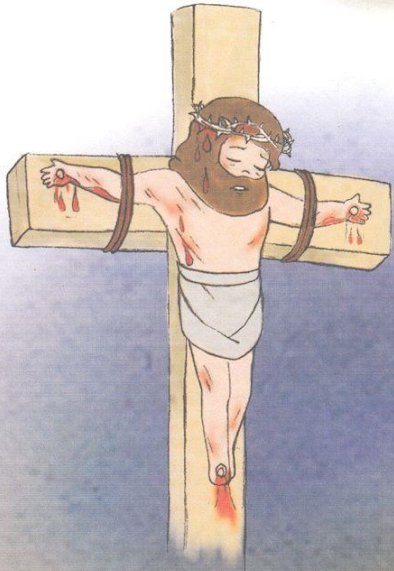
おとうさんは くびを かしげました。
「ろばに のっているのか。
ゼカリヤよげんしゃが いていた メシヤは
あのかた なのかな」
おとうさんは ひとりで しずかに つぶやきました。

「ゼカリヤよげんしゃって だれなの」

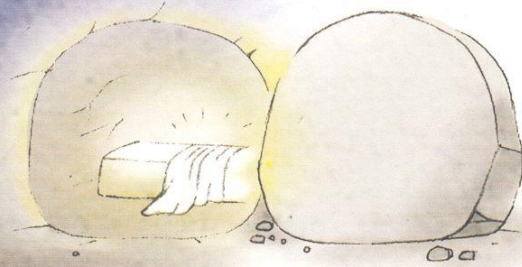
むすこが たずねたのですが
おとうさんは しばらく かんがえていたので
こたえませんでした。



なにちか のち イエスさまの
でし イスカリオテの ユダが
イエスさまを ぎん30まいで
うってしまいました。



イエスさまは じゅうじかに かけられて
みっかめに よみがえられました。



よみがえられて てんに のぼっていかれた イエスさまの
はなしは だんだん ひろがって いました。



「パパ! このまえ ろばに のっておられた イエスさまの
はなしを きいた?」


おとうさんは むすこを いすに すわらせて はなしはじめました。

「パパは うわさを きいて しているよ。
ほんとうに イエスさまは メシヤ、キリストだよ。
ゼカリヤよげんしゃが よげんした そのとおりだ」

むすこは あしを ぶらぶら ゆらしました。

「ゼカリヤよげんしゃって だれなの。おはなし してちょうだい」
おとうさんは むすこに なんびやくねん まえの ことを
はなしはじめました。



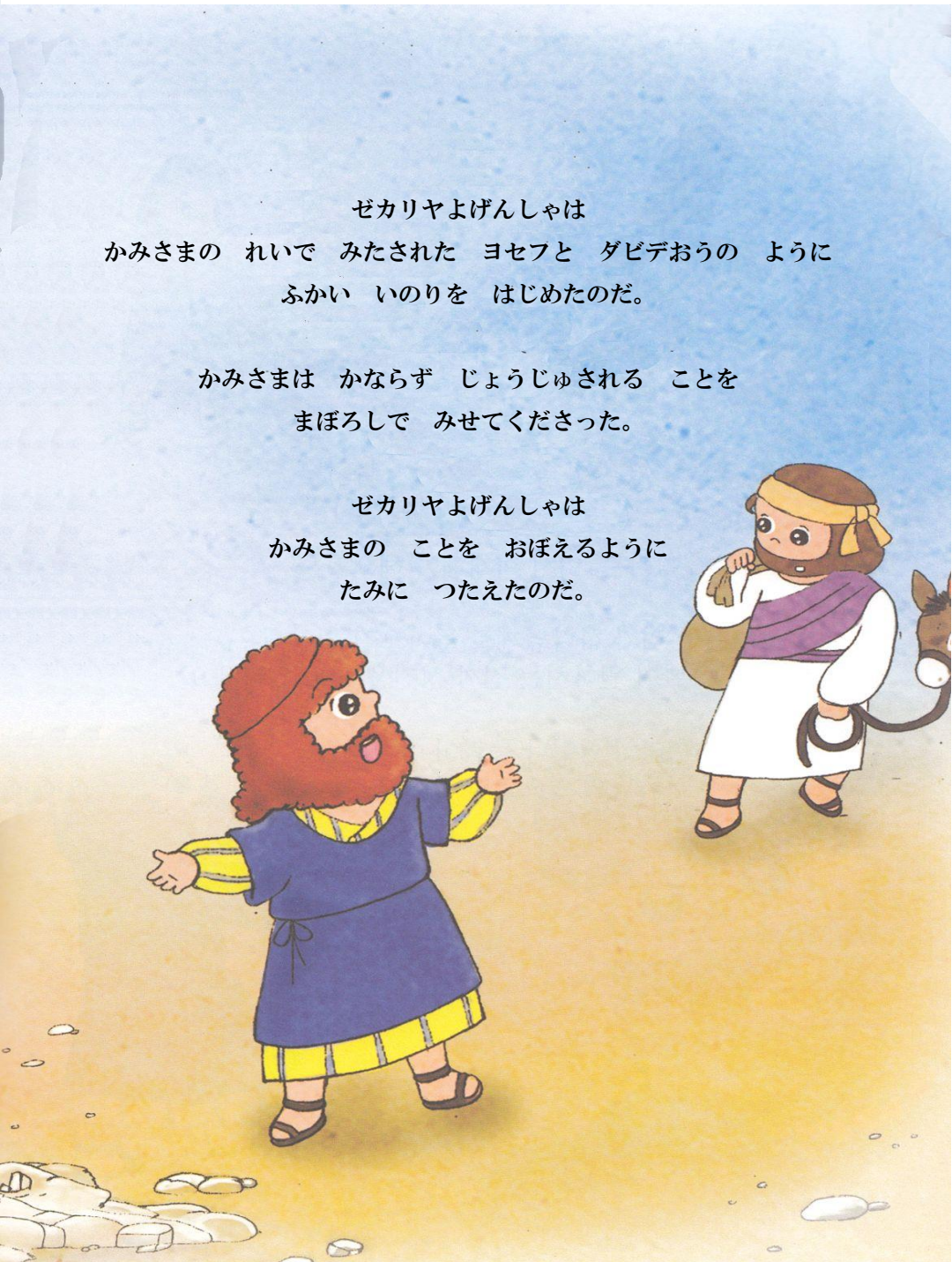


わたしたちの みんなが バビロンに
ほりよとして つれていかれた ときが あったのだよ。

そのとき けいやくの はこを おく ソロモンしんでは
はかいされていた。

かみさまは ほりよだった わたしたちを
もういちど イスラエルの ちに よばれた。
そして しんでんを たてるように いわれたのだ。

しかし まわりの くのが ぼうがいをして
たべて いけることが いそがしくて
しんでん けんちくが とまって しまった。



ゼカリヤよげんしゃは
かみさまの れいで みたされた ヨセフと ダビデおうの ように
ふかい いのりを はじめたのだ。

かみさまは かならず じょうじゅされる ことを
まぼろしで みせてくださった。

ゼカリヤよげんしゃは
かみさまの ことを おぼえるように
たみに つたえたのだ。





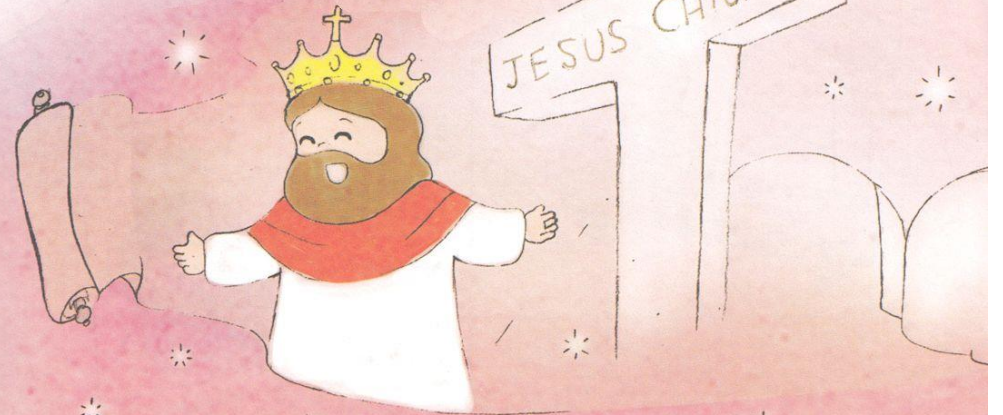
「みんな、はやく くいあらためないと いけない。

かみさまは わたしたちが かみさまに もどることを ねがっておられる。
かみさまは かみさまが ねがっておられる まことの しんでんを
たてることを ねがっておられる。

わたしたちの けんりよくや のうりよくに
よって ではなく
ただ かみさまの れいによって
することが できる」



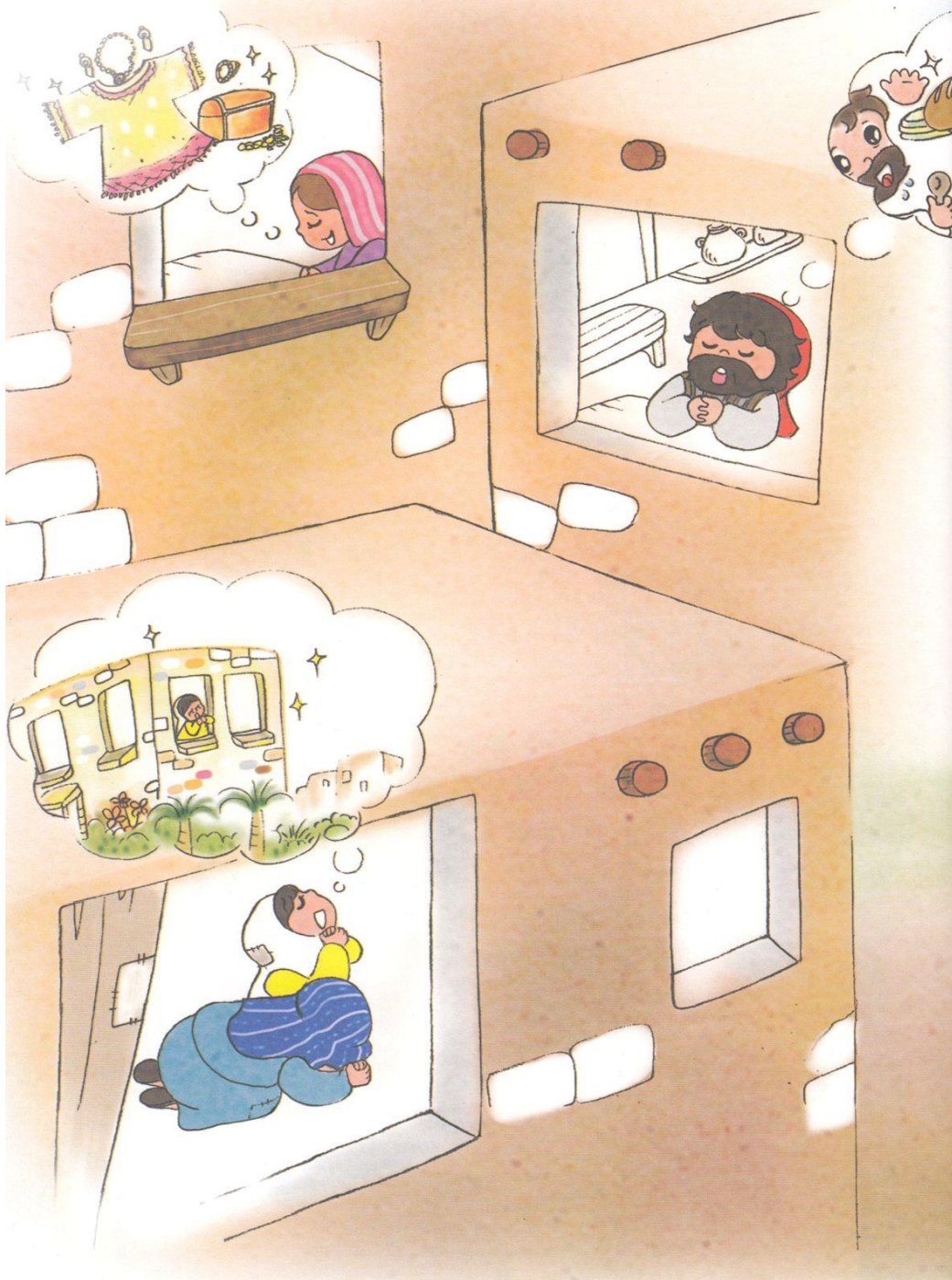
ゼカリヤよげんしゃは しんでんの しゅじんこう
キリストが こられる
そのひに ついて まぼろしを みたのだ。



「もう しゅの ひが くる。
そのひには ほんとうに
まことの さいし
まことの おう
まことの よげんしゃである
キリストを おくってくださいる。

そのかたが こられる ひには
すべての わるい せいりよくは
ほろぼされるだろう」



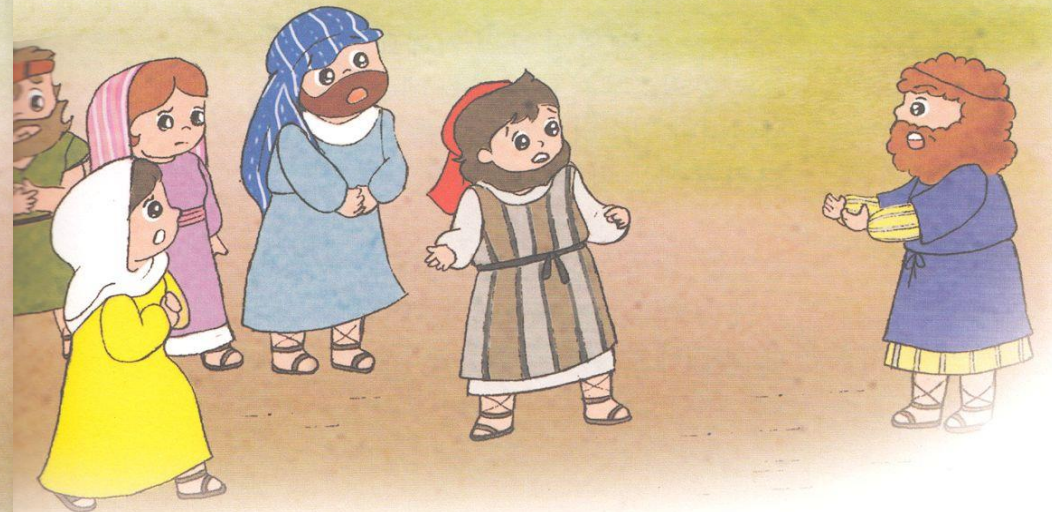


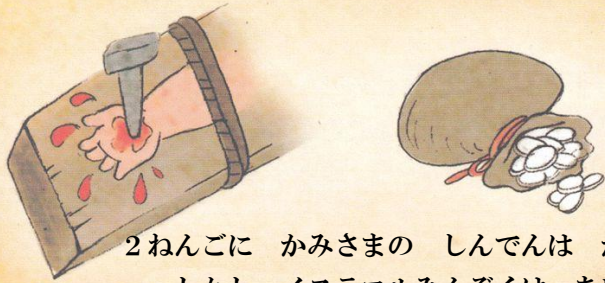
2ねんという じかんが ながれて ひとびとは かみさまに
しつもんした。

「バビロンに ほりよになって つれていかれた ときから
いままで だんじきを しました。
それを いまも つづけて すべきでしょうか」

かみさまの みことばが ゼカリヤよげんしゃに つたえられた。

「70ねんかん だんじきを したのだけれど
かみさまの ために したのだろうか。
わたしたちの みんぞくが たべたり のんだりしたのは
わたしたちじしんの ためだったろう。
わたしたちは かみさまの みことばを きよひして きていた。
しかし かみさまは ひの での ちと
ひの はいる ち から すくおうと いわれた。
それゆえ ただ すくいの しんこうを かいふく しなければならぬ」





2ねんごに かみさまの しんでんは かんせいした。

しかし イスラエルみんぞくは あいかわらず
たべて いくことが たいへんだった。

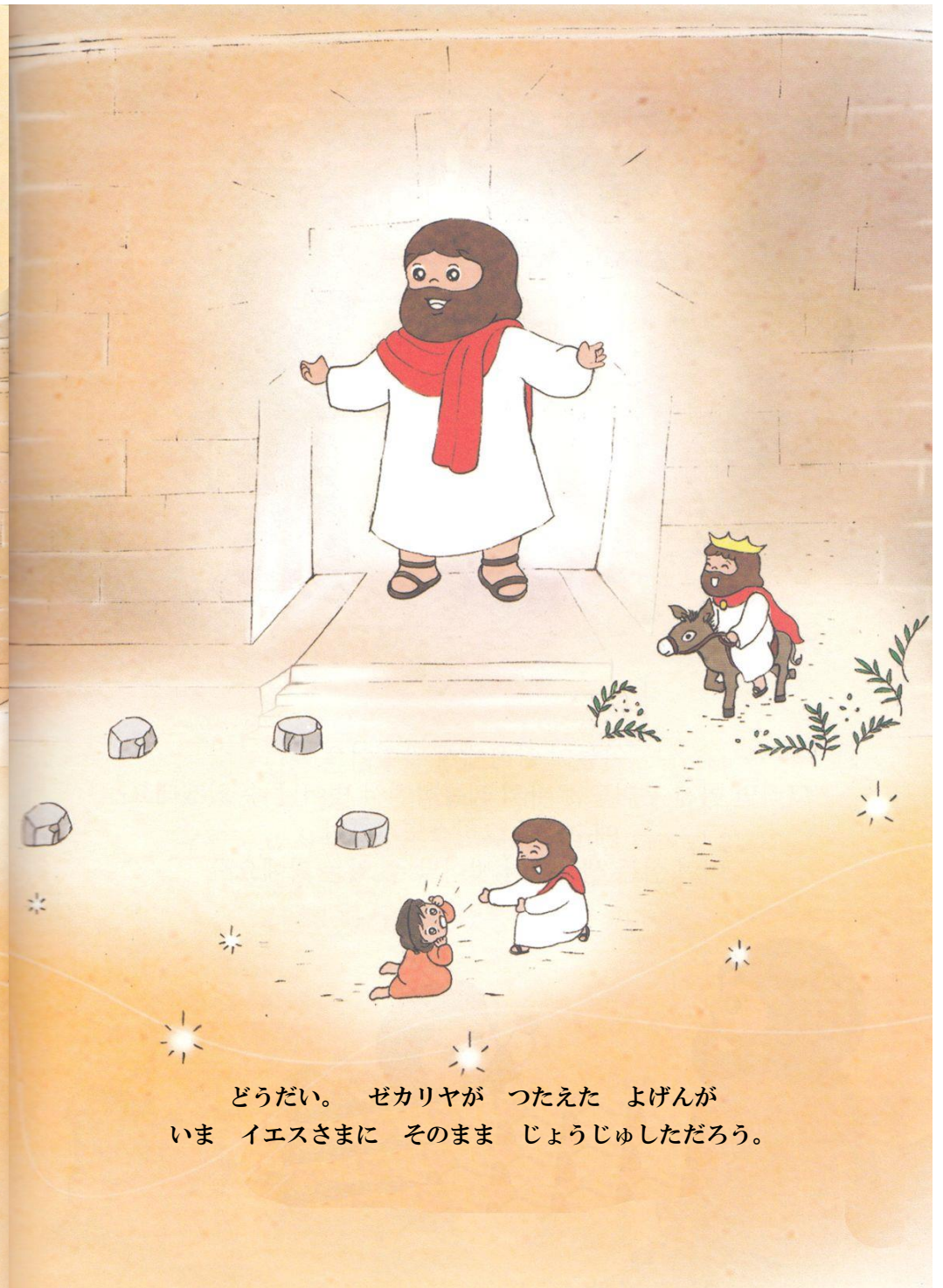
そして まわりの くにぐにが おおきく なる ときには
かならず ひがいを うけていた。



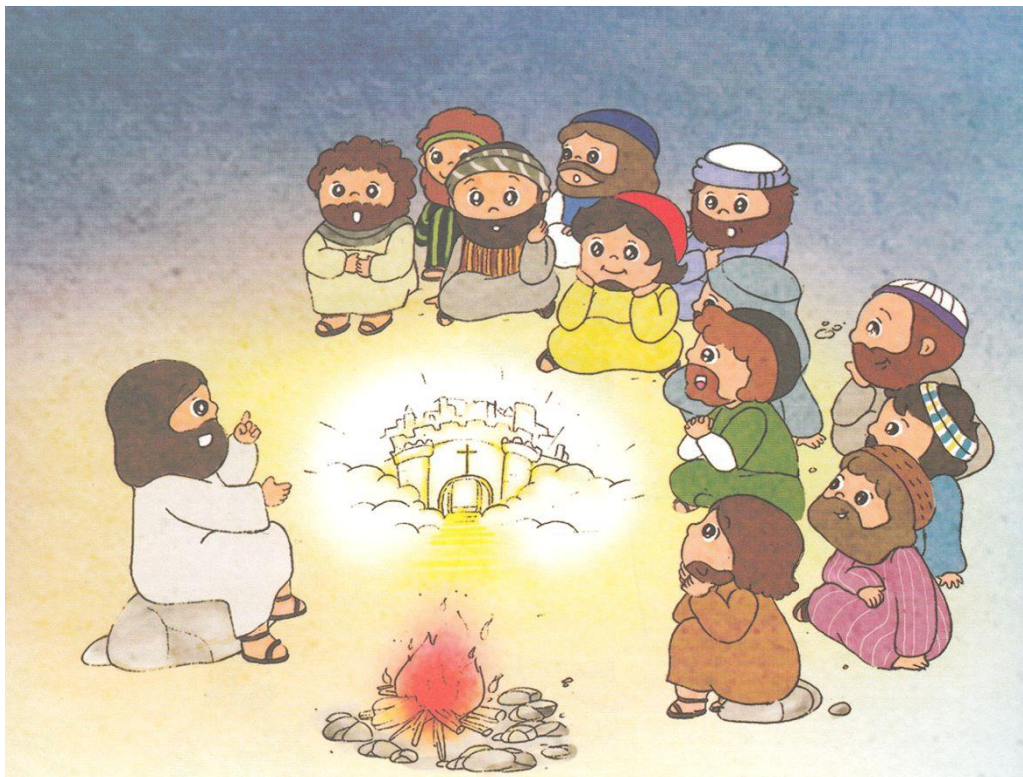
そのとき かみさまは ゼカリヤよげんしゃに まぼろしを みせられた。

「かならず まことの おうが こられる。
そのかたは ただしい かたで、すくいを くださって
おうであるけれど けんそんで ろばに のられる。
そのかたは ちの はてまで おさめられるだろう」

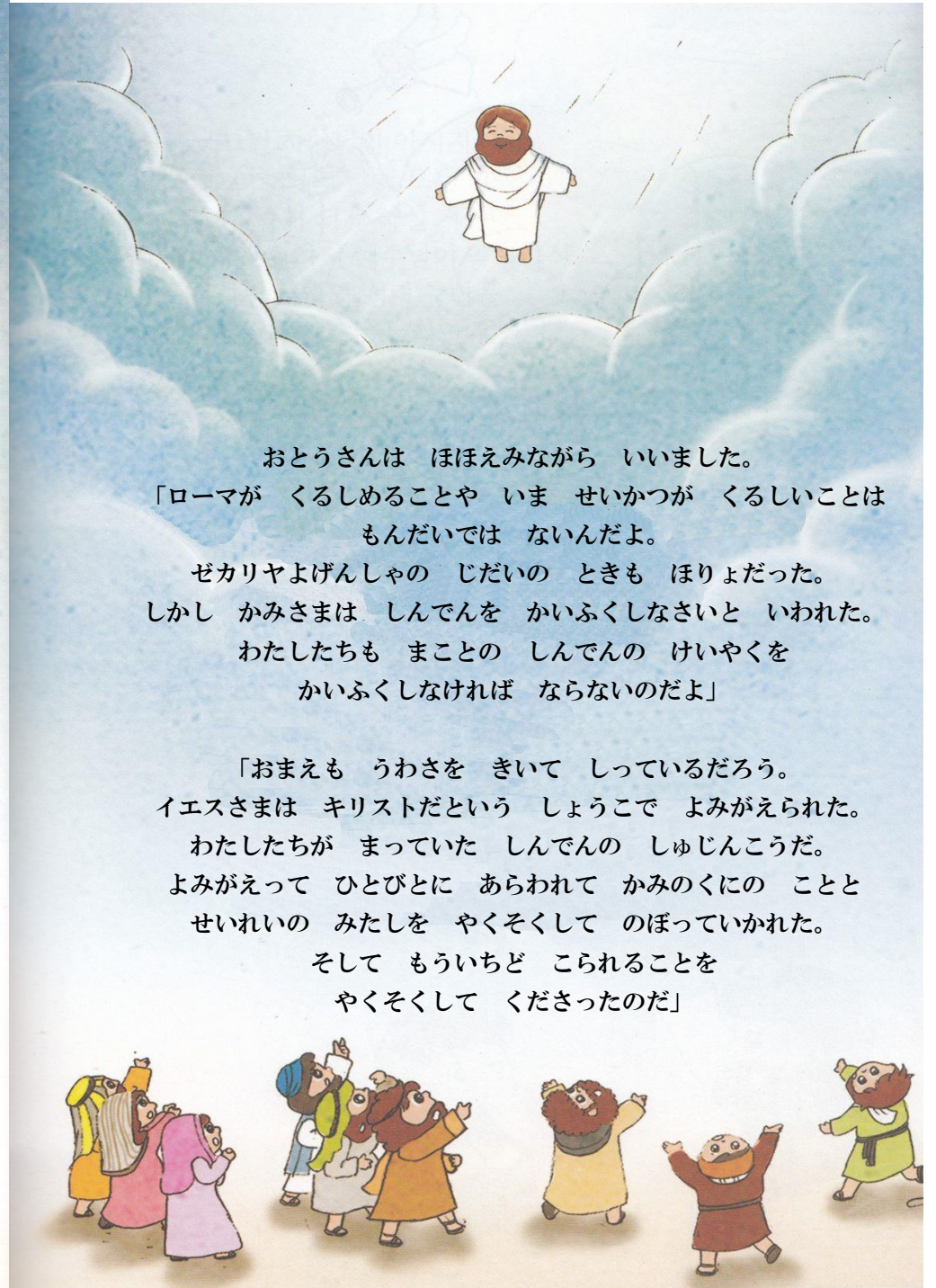
「かしらいし、てつの くい、いくさ ゆみ、けんいが あるものが
みんな キリストに でてくるだろう。
そのかたは ぎん30まいで うられて
つきさされる だろう」



どうだい。ゼカリヤが つたえた よげんが
いま イエスさまに そのまま じょうじゅしただろう。



むすこは おとうさんに いいました。
 「それなら いま ぼくたちも ローマの くるしみから
 でてくることが できるのかな。
 イエスさまが キリストであるなら
 こんな くるしい せいかつから でてくることが
 できるんだよね」



おとうさんは ほほえみながら いいました。
 「ローマが くるしめることや いま せいかつが くるしいことは
 もんだいでは ないんだよ。
 ゼカリヤよげんしゃの じだいの ときも ほりよだった。
 しかし かみさまは しんでんを かいふくしなさいと いわれた。
 わたしたちも まことの しんでんの けいやくを
 かいふくしなければ ならないのだよ」

「おまえも うわさを きいて しているだろう。
 イエスさまは キリストだという しょうこで よみがえられた。
 わたしたちが まっていた しんでんの しゅじんこうだ。
 よみがえって ひとびとに あらわれて かみのくにの ことと
 せいのれの みたしを やくそくして のぼっていかれた。
 そして もういちど こられることを
 やくそくして くださったのだ」





ゼカリヤよげんしゃも

イエスさまが もういちど こられる そのひを みたのだ。

さいごの しゅの ひは こられる しゅが

ぜんせかいの おうに なられるのだよ。

そのときは かみさまが さばきを なさって

のこった たみは えいえんに しょうりするよ」

むすこの めが きらきら かがやきました。

「そうなんだ。 そのひは いつ くるのかな」



「それは かみさまだけが ごぞんじなのだよ。
かみさまは しゅの ひに すべての みんなに
ふくいんが のべつたえられるように される。
わたしたちは いま よみがえられた イエスさまが
やくそくされた かみのくにと せいれいの みたしを
せいかつで みことばと いのりで あじわえば
よいのだよ」

むすこは イエスさまを もっと しりたいと
おもいました。

そして なにも ない へやに はいって
イエス・キリストの おなまえで
いのりを はじめたのでした。

